

☆障がいのある児童生徒などへの配慮 ～家庭編 技術・家庭編～



小学校学習指導要領解説家庭編・中学校学習指導要領解説技術・家庭編に掲載されている内容をまとめました。

* 高等学校については、「家庭編（高等学校）」をご覧ください。

【小学校 家庭の配慮例】

1 学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合

【10の視点*¹】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ②聞こえにくさ ⑩注意の集中を持続することが苦手



＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞

落ち着いて学習できるようにするため、道具や材料を必要最小限に抑えて準備したり、整理・整頓された学習環境で学習できるよう工夫したりすることが考えられる。

2 活動への関心をもつことが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑦心理的な不安定 ⑩注意の集中を持続することが苦手



＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞

約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示したり、体感できる教材・教具を活用したりして関心を高めることが考えられる。

3 周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシンなどの用具を

安全に使用することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ③道具の操作の困難さ

⑦心理的な不安定

⑩注意の集中を持続することが苦手

＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞

手元に集中して安全に作業に取り組めるよう、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保することなどが考えられる。



* 1：小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説の各教科等に示されている、学習活動を行う場合に生じる困難さ(①見えにくさ②聞こえにくさ③道具の操作の困難さ④移動上の制約⑤健康面や安全面での制約⑥発音のしにくさ⑦心理的な不安定⑧人間関係形成の困難さ⑨読み書きや計算等の困難さ⑩注意の集中を持続することが苦手)を整理して、当センターでは、【10の視点】として位置付けています。

【中学校 技術・家庭の配慮例】

1 技術分野では「A材料と加工の技術」の(2)において、周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ ③道具の操作の困難さ ⑩注意の集中を持続すること

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

障害の状態に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組めるように、個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保したり、作業を補助するジグを用いたりすることが考えられる。

2 「D情報の技術」の(2)及び(3)において、新たなプログラムを設計することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続すること

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

生徒が考えやすいように、教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮することが考えられる。



3 家庭分野では、「B衣食住の生活」の(3)及び(5)において、調理や製作などの実習を行う際、学習活動の見通しをもったり、安全に用具等を使用したりすることが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ③道具の操作の困難さ ⑦心理的な不安定 ⑩注意の集中を持続すること

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

個に応じて段階的に手順を写真やイラストで提示することや、安全への配慮を徹底するために、実習中の約束事を決め、随時生徒が視覚的に確認できるようにすることなどが考えられる。

4 グループで活動することが難しい場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ⑧人間関係の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担したり、役割が実行できたかを振り返ることができるようにしたりすることなどが考えられる。

